

3. 平成 17 年度決算の状況

(1) 水道事業

水道事業は、給水人口の減少や景気の低迷の影響及び節水意識の定着により、使用水量が平成 8 年をピークに年々減少していく傾向にあります。

こうしたなかで、安全で良質な水の安定供給を図りながら、防鹿水源地（浄水場）の民間委託等組織の合理化や、経費の節減等による経営の健全化に努めた結果、今年度も利益を出すことが出来ました。

(ア) 有収水量

有収水量は、4,009,591 m³（1 日平均 10,985 m³）で、前年度と比較して 35,412 m³（0.88%）の減少となりました。

(イ) 建設改良工事等（消費税及び地方消費税込み）

施設の改良工事等に総額で 128,715,872 円（うち消費税及び地方消費税 6,129,326 円）を支出しました。

実施した主な工事は、以下のとおりです。

・ 緩速ろ過池ろ過速度計設置工事	16,888,200 円
・ 緩速ろ過池（3号）改修工事	18,598,650 円
・ 大竹港東栄埋立に伴う上水道施設整備工事	46,012,050 円
・ 国道 186 号道路改良事業に伴う送水管支障移転工事	28,021,350 円

(ウ) 財政状況（消費税及び地方消費税抜き）

収益的収支は、収入総額 593,833,948 円、支出総額 505,331,577 円で、差引き 88,502,371 円の純利益となりました。

経理の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	593,833,948 円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	505,331,577 円
	差引利益額	88,502,371 円
資本的収支	収入総額	102,058,476 円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	304,194,778 円
	差引不足額	202,136,302 円

資本的収支の不足額 202,136,302 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 3,638,567 円、過年度分損益勘定留保資金 198,497,735 円で補てんしました。

(2) 工業用水道事業

工業用水道事業は、効率的な事業運営など財政の健全化に努めましたが、第2期工業用水道事業の費用化に伴い、企業債償還利息及び減価償却費の財政圧力により、経常損失となりました。

また、資金不足に対応するため、水道事業会計から60,000千円を借り入れました。

(ア) 有収水量

有収水量は、14,050,047 m³（1日平均38,493 m³）で、前年度と比較して254,494 m³（1.8%）の減少となりました。

(イ) 建設改良工事等（消費税及び地方消費税込み）

施設の改良工事等に総額で132,393,378円（うち消費税及び地方消費税6,304,446円）を支出しました。

実施した主な工事は、以下のとおりです。

- ・ 大竹港東栄埋立事業に伴う工業用水道施設整備工事 111,606,600円
- ・ 国道186号道路改良事業に伴う送水管支障移転工事 14,757,750円

(ウ) 財政状況（消費税及び地方消費税抜き）

収益的収支は、収入総額349,733,540円、支出総額568,878,410円で、差引き219,144,870円の純損失となりました。

経理の状況は次のとおりです。

収益的収支	収入総額	349,733,540円
（消費税及び地方消費税抜き）	支出総額	568,878,410円
	差引不足額	219,144,870円
資本的収支	収入総額	147,662,593円
（消費税及び地方消費税込み）	支出総額	405,888,366円
	差引不足額	258,225,773円

資本的収支の不足額258,225,773円は、当年度分損益勘定留保資金79,839,839円、建設改良積立金178,385,934円で補てんしました。